

2022 9/27

No.2171

毎月第2・第4火曜日発行

政経 かながわ

一般社団法人
— 神奈川政経懇話会 —



横浜マリンタワー（横浜市中区）が1日、3年半の改修工事を経てリニューアルオープン。「Nature&Future」をコンセプトにタワー内外を一新した。`還暦、を過ぎた横浜港のシンボルが輝きを増した。



視点点描	3
「台風制御」に期待込め	
講演録	4
「地域金融機関としての役割」 横浜銀行頭取 片岡 達也	
デモクラシーの現場から	8
旧統一教会問題に翻弄される岸田政権	
社 会	10
日本、順位低迷、常連、に ジェンダー・ギャップ指数	
経済双眼鏡	12
安倍政治からの決別を 岸田内閣の選択すべき道	
風人來人	13
運慶に魅せられて	
神奈川景気データファイル	14

事務局だより

◇2022年10月の講演会

10月24日(月)午後1時30分～3時

ロイヤルホールヨコハマ5階
「リビエラの間」

講師：台北駐日経済文化代表
処横浜分処処長

張 淑玲氏

演題：「直近の台湾情勢及び台湾と日本の絆」

※新型コロナの感染拡大の状況によって中止する場合があります。

【事務局移転】神奈川政経懇話会事務局は10月15日(土)、横浜メディアビジネスセンターの9階から12階への移転を予定しています。電話番号やファクス番号、メールアドレスは変わりません。同日は一時的に電話やファクス、メール(ホームページからの講演会申し込みを含む)がつながりません。

【お知らせ】神奈川政経懇話会では、会報「政経かながわ」に会員コーナーを設け、新商品の紹介、地域貢献活動、人事などジャンルを問わずさまざまな会員情報を掲載しています。掲載の問い合わせなどは事務局☎045 (226) 2121。

視点 点描



「台風制御」に期待込め

目指すは、巨大なエネルギーを生み出しながら迫ってくる危険な渦巻きだ。その中心に向けて無人航空機を飛ばし、大量の水を散布する。成功すれば渦巻きは少し小さくなり、周囲に被害を及ぼす風を弱めることができる。

台風を目をターゲットとした「打ち水作戦」。非現実的にも映るアイデアだが、気鋭の気象学者ら

がその実現に本気で挑んでいる。

プロジェクトの名は「タイフーンショット」。目標とする2050年を見据え、研究チームのリーダー、筆保弘徳・横浜国立大教授は言う。「台風は人類にとつての脅威ではなく、恵みへと変貌している」。打ち水などによる「台風制御」だけでなく、台風風の力を活用する「台風発電」も視野に

入れている。

現時点では、どちらの計画も実現困難だ。しかし、だからといって手をこまねいていては、「台風は毎年日本に上陸し、大きな被害を及ぼし続ける」と筆保教授。さらに、気候変動の影響で台風の影響が増すことも予想されている。

2050年を迎えた時、台風の「制御」や「発電」は今以上に社会から求められ、より現実的なテーマになっていくかもしれない。

一方で忘れてはならないのは、自然現象に手を加えることについての倫理的な問題だ。台風を制御した結果、進路や上陸地点が変わってしまったら、本来影響がなかったはずの地域や国に被害が及ぶリスクもある。技術的な面で実現の道筋が見えたとしても、法制度上の課題や実施主体など解決すべき点は少なくない。

一つ一つの課題を解決していく

ためには、多様な主体から幅広く知見を結集する必要がある。だから研究チームは、講演やシンポジウムなどで取り組みへの理解を求めるアウトリーチ活動にも力を入れている。

技術の向上に取り組みながら、社会的な理解も得る。両面をクリアできなければ、この困難なミッションは達成できない。そう考えると、2050年までの時間は決して長くない。

筆保教授は台風のことを「空飛ぶ給水車」とも呼ぶ。水不足の解消などに大きな役割を果たす場合もあるからだ。鍵を握るのは、発想の転換だろう。

野心的な横浜発のプロジェクトを今後もフォローしていかなければ。実現に一步でも近づけば、と期待を込めながら。

(神奈川県新聞社報道部

地域報道統括部長・渡辺 渉)